

原子力委員会

第32回市民参加懇談会議事録

1. 日 時：平成20年12月8日（月）13：30～15：30
2. 場 所：中央合同庁舎4号館 10階 1015会議室
3. 出席者
（市民参加懇談会）中村座長、浅田委員、小川委員、小沢委員、東嶋委員、吉岡委員
（原子力委員会）近藤原子力委員長、田中原子力委員長代理、松田委員
（内閣府）土橋参事官、牧補佐
4. 議 題
（1）市民参加懇談会 in 京都の開催結果について
（2）次回の地域市民参加懇談会の開催について
（3）その他
5. 配付資料
資料第1-1号 市民参加懇談会 in 京都の概要
資料第1-2号 市民参加懇談会 in 京都のアンケート結果
資料第1-3号 市民参加懇談会 in 京都議事録
資料第2号 次回の地域市民参加懇談会の開催について（案）
資料第3号 第31回市民参加懇談会議事録
参考資料1 原子力政策の最近の主なトピック
参考資料2 原子力委員会の広聴活動について（市民参加懇談会以外）

○中村座長 では、始めましょう。

○事務局 先に事務局のほうからなんですが、この市民参加懇談会、実は今年度初めてということでございまして、私ども事務局のほうの準備がなかなか進みませんで、もう年度も後半になってしまうような時期になってしましまして、事務局のほうからお詫び申し上げます。

○中村座長 それでは、32回になるそうです。市民参加懇談会を開催します。

我々委員としては、今のように事務局から言われても、どう対応していいのか困るんですが。開催いたします。そういうこともあって、ぜひきょうはフルメンバーでの開催を期待していたんですけれども、新井委員、出光委員、岡本委員はご都合がつかなくてご欠席ということになっております。

きょう、いろいろ審議していただくことがございますけれども、その後の進行も考えて、やっぱり年明け早々ぐらいにもう一度、できればフルメンバーで、再日程調整をさせていただきますけれども、フルメンバーで専門委員の方にお集まりいただいて会を開きたいというふうに私自身は考えております。そうじゃないと、ここまで押し迫っているので、年度内の予定を遂行するについて、皆さんの合意をやはりいただきたいと思っているものですから、その辺はまた後ほどご相談をいたします。

本日のメインの議題ですけれども、京都で開催いたしました市民参加懇談会の開催結果を、皆さんこれはもう既にご確認いただいておりますが、簡単にご報告をして、それから、今後の地域での市民参加懇談会の開催についてのご意見を伺いたいと思っております。

では、まず事務局のほうから本日の資料の確認をお願いしたいと思います。

○事務局 資料の確認をいたします。まず、議事次第1枚、上紙でございます。それから座席表が1枚ございます。

それから、資料1-1、京都の会議の概要でございます。

1-2、京都のアンケート結果でございます。

1-3、京都のときの議事録でございます。

それから、資料第2号といたしまして、今回ご議論の中心になるかと思いますが、次回の地域市民参加懇談会の開催についての案でございます。

それから、資料3号、前回3月の懇談会の議事録でございます。これについてはご確認をいただいているものと理解してございます。

それから、参考資料として、原子力政策の最近の主なトピックというもの。

それから、参考資料2ということで、この市民参加懇談会以外の広聴活動についてということでお配りしてございます。

不足がございましたら、事務局までお願いいたします。

○中村座長 資料のほうは皆さんよろしいでしょうか。漏れはありませんね。

それでは早速、大分記憶も薄れてしまいましたけれども、京都で開催いたしました地方での市民参加懇談会でございますけれども、その開催結果について、皆さんのご意見もお伺いしてまいりたいと思います。

まずは概略を簡単に、開催結果に関する資料報告ということで、事務局からお願いいたします。

○事務局 それでは、資料1-1、市民参加懇 i n 京都の概要でございます。

6月2日、京都のセンチュリーホテルで開催したもので、テーマとしては「原子力～知りたい情報は届いていますか～『地球温暖化と原子力』」というテーマでございました。

ご意見発表者として5名の方にお越しいただきまして、NPO法人の気候ネットワークの浅岡様、それから同志社大学の学生さんで地球学生環境サミットの実行委員長をされている上杉さん、それから地域の女性連合会の副会長をされている佐伯さん、それから京都教育大学で教育学を専攻されている学生さんの竹下さん、それから京都大学の教授をされています手塚さんというメンバーでございました。

第1部に、事務局のほうから地球温暖化と原子力に関する基礎的な情報をご説明申し上げた上で5人の方のご意見を伺いまして、第2部として、フロアからの意見をいただいたところでございます。

2ページのところでございます。2ページのところからご発表いただいた方々のご意見の概要をざっと書いてございます。

まず、最初にご発表いただいたところでは、国内の排出量取引ですとか炭素税の仕組みなどにも触れられまして、3番のあたりですが、日本の温暖化政策について、原子力に多額のお金が使われているけれども、ほかの温暖化対策に使うとより効果が上がるというようなご意見もございました。

それから、5番のところでございますが、環境家計簿というような取り組みというものご紹介いただきまして、家庭の中でできる地道な取り組みを積み重ねることが地球温暖化対策につながる原動力だというような話ですとか、それから、国に対するご意見といたし

ましては、いま一度、省エネを家庭で実践している者と同じ目線に立って、早急な地球温暖化防止の実現やわかりやすい情報発信をお願いしたいというような話がございました。

それから、7番あたりからは教育の話でございますが、小中学校、高校等での教育の話でございますが、すべての子供たちが基礎知識を学ぶ機会がない状況であるという話等がございました。

教育の課題としては、9番のところでございますが、原子力エネルギーに関して、そういう利用がよいのか悪いのかを含めて、授業でそのテーマを扱うことがなかなか実施しにくいという、そういうところが課題だという話もございました。

それから、地球学生環境サミット in 京都の中で学生アンケートをされたそうで、それについてのご紹介等もございました。

それから、少し飛びまして、15番のあたりでございますが、エネルギー学というようなものを提唱しているというところで、さまざまな分野の人間が共同作業をして、情報・イメージを共有していく交流の場をつくっていくことが必要であるというような意見がございました。

それから、第2部は、フロアからのご意見をいただきました。

5ページ目の下のほう、会場参加者というところでございますが、ウランにかわってトリウムを使っていくのがいいんじゃないかというご意見が1つ。

それから、6ページ目のところでございますが、一番上のほうですが、鮮魚の仲卸の会社で働いている方が、六ヶ所村の再処理工場が出している放射性物質の影響の話などをされまして、原子力についてマイナス面が語られていないのではないのかというような意見がございました。

それから、6ページ目の中段下あたりでございますが、エネルギーに関して、地産地消とすべきではないかというようなご意見もございました。

それから、7ページの一番下のほうでございますが、女性連合会の方でございますが、連合会として学習しながら、どれが本当かということを見きわめて活動していきたいというような話。それから、身の回りのことを実践するのが大事だというような話がございました。

それから、資料1-2でございますが、アンケートでございます。

1ページ目のところで、満足度について聞いたものでございます。「満足した」から「だいたい満足した」以上を挙げますと、大体半数以上の方が「満足した」とお答えいた

だいているところでございます。

その理由についてご意見をいただいているところでございますが、例えば1ページ目のところ、「だいたい満足した」のあたりで言えば、タウンミーティングのようなやらせかと思っただが、違ってよかったというような意見ですとか、あと、全般には難しかったが、いろいろ勉強させていただきましたというような意見、これはたくさんございました。

2ページ目の真ん中あたりでは、なかなか賛成、反対という視点からの論議は不可能で、議論に専門性が必要とされ非常に難しく感じた。第1部だけでよかったですみたいな言い方をされている方もございました。

それから、その下にありますが、原子力に対する認識が余りなくて、身近に感じないというような意見もございました。

それから、「ふつう」という方の意見などを見ていきますと、日常の活動から少し離れている話なので、なかなかわかりにくかったような意見がございました。

3ページ目のところ、「あまり満足しなかった」という意見がございましたが、エコに偏っていて、安全性の話についてもあればよかったというようなご意見ですとか、それから、一般参加者に多くの意見を聞くべきというような意見もございました。

それから、「不満」と言われた方の例で見ますと、意見は楽しいのですが、時間が非効率的だというような言い方をされている方もいらっしゃいました。

それから、3ページ目の一番下のところで、開催日時がウイークデーのお昼過ぎという設定で、本当に多くの人に参加してほしいのか疑問というような意見もございました。

それから、4ページのところでございますが、開催時間についてどうだというご質問ですけれども、これは「やや長かった」という意見、「長かった」も含めると、半数以上の方がこういうご意見でございました。

それから、市民懇の活動についてという質問については、「まあまあ期待している」から「期待している」以上を合わせますと、かなりの率の方に期待をいただいているということでございます。

それから、自由回答でいただいているようなところ、5ページ目以降に書いてございますが、そこから少しご紹介をしますと、7ページの一番上のあたりは会議運営の話もありますのでご紹介しますと、実践に基づいた発表がわかりやすくよかったという意見がございましたが、どのような利点や悪いところがあるのか知りたいというところ。それから、休憩なしで早めに終わったほうがいいんじゃないかという意見もございました。

それから、7ページ目の中段ちょっと下あたりで、会場の冷房が強くて、省エネ・環境問題を扱っている会議ではないのですかという、ちょっと厳しい意見もいただいたところでございます。その他もろもろご意見がございました。

1-3の議事録については、ご説明は割愛させていただきます。

以上でございます。

○中村座長 皆さんも既に一度は目を通していただいていると思いますけれども、京都の開催結果について、コメント、ご意見、今後へ改良すべき点など、お気づきになった点がありましたらご発言いただきたいと思いますが。

それでは、吉岡委員、どうぞ。

○吉岡委員 逆の順でもよかったんですけども、こう回るかなと。

○中村座長 いつも浅田さん最初だからね。

○吉岡委員 発言させていただきますが、半年前なので記憶があやふやだという、そういうところがありまして、やっぱりもっと頻繁にやるべきでしょうね。これは会の感想ではなくて、会のアフターケアについての感想でございます。

会については余り覚えてはいないのですが、ただ、2人若い学生さんが参加されたというのは、よかった。学部学生の方は割と元気がよくて、大学院の方はとてもまじめだということで、ともに非常に好感が持てましたので、会の活性化というような観点から、若手を今後とも積極的に登用するということについては前向きに考えるべきだというふうに思いました。ほかのパネリストの方も冷静に議論しておりましたので、会の進行としては、まずまずよかったのではないかというふうに思っております。

テーマなんですけれども、「地球温暖化と原子力」でしたか、「地球温暖化」の原因あるいはそれに対する対策というか、それについての議論が少なかったなというか、ほとんどなかったように思うんですね。この会の後に2007年度の環境省のデータが発表されましたけれども、マイナス6%を実現しなきゃいけないのに、プラス8.7%という非常に大きな数字で、マイナス15%を、もう既にカウントは始まっていますから、どうやってそれを稼ぐかということは大きな懸案で、下手をすればその大部分を海外から買ってくるというような話にならざるを得ないような状況のようにも思うわけですが、それに対してどう取り組むのかというのが基本にあってしかるべきで、原子力というのはそれを左右する要因の一つにとどまるわけですから、全体としてどうするのかというようなことについての真摯な検討というのが、このテーマを続けるならば、今後もあっていいかな

というふうに思います。また地方でこの会をやったということの意味というのは、地方はどうか、京都府はどうか、あるいは京都市はどうかというようなことを確認する意味がある。家庭でできること、国がやること、これはそれぞれあるのですけれども、自治体レベル、都道府県、市町村レベルで実態がどうなっていて、それについて何ができるのかというような議論も、今回はなかったんですけれども、これも次回以降、このテーマを続けるならば、そちらへの十分な手当てということが必要なのではないかと思います。

以上です。

○中村座長 ありがとうございます。

皆さんのコメントを伺って、また最後にディスカッションしたいと思います。

東嶋さんはいかがでしょう。

○東嶋委員 2点ございます。

1つは、今年度のテーマを「地球温暖化と原子力」にしたように私は覚えているのですが、ですので、地球温暖化防止対策の貢献度の高いものの一つとして原子力があるという、それを広く知っていただきたいし、またその対策と一緒に考えていただきたいという意味では、このテーマについてもう少し掘り下げというか、もう少しこのテーマに集約して発表なり議論なりができれば、もっとよかったかなと思いました。

それから、学生さんにというふうに言ってご参加いただいたのは初めてだったと思いますが、参加していただいたことによって、聞いてくださる学生さんとか、あるいはこれを今後見てくださる学生さんもふえてくると思いますので、そういった意味では、これからも学生さんを入れていくことができれば、ぜひ入れていただきたいと思いました。特に二酸化炭素の排出が少ないということでは、原子力の貢献というのが大きいのにもかかわらず、若い人に特にこの現状というのは知られていなくて、むしろ原子力発電をやるとCO₂を排出すると思っている若い人が多いようですので、そういった認識を改めていただく上でも、若い人にぜひ今後、出ていただきたいと思いました。

以上です。

○中村座長 ありがとうございます。

小沢さん、お久しぶりです。覚えていますか。

○小沢委員 高知のほうのおばあちゃんの話をした学生さんがいて、どこかへ何か原子力施設を持って行ってってくれて、うちのほうへ来るのは到底許せんという話が出たんですけど、もう少しあの男の子と話せばよかったなという感じを持っているんですけどね。要す

るに、行灯で暮らしているんじゃないと思うんですよね、ランプとか。だけど、どこかから持ってくるのはいいけど、自分のところは嫌だというのは、どういうところからそういう考えが、それはよくある話なんですけど、若い子がそういうこと言うのは珍しいので、ちょっとその内容を聞きたかった。今は大体、原子力については、使うのはいいけども近くに施設を持ってこられるのは反対という意見が多いので。その話をその男の子ともう少し深めて話をしてみたかったなと帰りの電車の中でしきりに思ったことを思い出すので、あれが一番印象的だったですね。みんなエコの話をしていましたから、珍しく。余り賛成とか反対とかの意見が出ない中で、極めて具体的に、うちのばあちゃんは嫌だと言っていると。あれは高知の人だったと思うんですけど。

○近藤委員長 私には小沢さんの川口の鋳物工場の話が印象的だった。あれだけでも京都までやってきて傍聴させて頂いた価値ありと思いました。

○中村座長 そう、小沢さんの話は印象的だったね、そういえば。委員長に言われて思い出した。

○近藤委員長 あれをいろいろなところで宣伝しているんですよ。この議事録みんな見てくれて。

○小沢委員 もう少しちゃんとあの男の子に話を聞けばよかった。代表的な意見ですから、原子力に対する。だから、もうちょっとやっておくと、彼の将来のためによかったんじゃないかと思うんだけど。

○事務局 資料1-3の21ページの記録があるんですが。

○中村座長 上杉君か。

○事務局 21ページの真ん中からちょっと下ぐらいのところ。

○中村座長 上杉君だよ。東洋町の話。

○小沢委員 まあ、そんなものです。終わります。

○中村座長 でも、上杉君もあのエピソードはありましたけれど、基本的には積極的に取り組んでアンケートとったりなんかして、一生懸命やってくれたいて、全般的な報告内容はよかったですね。いわゆるNIMBYの話が出たという以外についても。

じゃ、小川さん、お願いします。

○小川委員 私はこの会に出られなくて申しわけなかったんですが、ざっと概要を読ませていただきまして、3つ感じたことがあります。

まず、会場あるいはパネリスト同士の意見で、かなり双方向といたしますか、質問と、そ

れから専門員の皆様方のやりとりというのが非常にタイムリーにされているんだなということがわかりまして、これで会場の方が結構満足されたんじゃないかなと思いました。

2番目は、アンケートを見ますと、今までより以上に難しいという意見が多いかなというふうな気がします。ですから、これはきっと一般の方がすごくたくさん来られていたせいではないかと思うのですが。

○中村座長 そうなんですよ、後でちょっと説明します。

○小川委員 一般の方がたくさん来られたのは、それはそれでよかったのではないかと。大学の先生のご説明がとてもわかりやすいというご意見もありますが、原子力とのかかわり方の少ない一般の人が来るというと、専門的な話は難しいんだろうなというようなところなんだと改めて思いました。

それから、皆様方が、学生さんが参加されるのは非常によいというご意見には、私も賛同いたします。

以上です。

○中村座長 ありがとうございます。

浅田さん。

○浅田委員 私は皆さんがおっしゃらなかったことをつけ加えさせていただきます。

小川さんが言われたように、難しいと言われたのは、会場に半分は女性がいたからだと思うんですね。

○中村座長 100人、女性がいたからね。

○浅田委員 今までで一番多いですね。画期的だったと思います。そして、その女性たちは、パネリストで参加された方の団体関係が多かったようで、原子力について何か勉強というか、こんな機会がありましたかと質問したところ、今までにありませんと言われました。そういう団体の方たちが多くいらしたために難しかったと言われたけれども、勉強になったという意見もとても多かったということは、その機会に原子力に触れていただけなので、そういう意味ではすごくよかったなと思いました。

それから、学生さんのパネリストがお二人いらしたんですが、参加者に学生さんはほとんどいらっしゃらなかった。これが残念だなと思いましたので、今後学生さんをお呼びし、なおかつ会場にも学生さんがいらっしゃれるような何か工夫があればいいなと思いました。

それから、いろいろな調査を見ますと、京都ってやはり環境の意識が高いというふうにいるところから出て、それは京都会議があったということも関係していると思うん

ですが、そういう意味で原子力について余り議論にならずに、環境的なお話が多かったかなど、そんな気がしました。

以上です。

○中村座長 ありがとうございます。

私も大体皆さんと共通した印象を持ってしまして、京都でやりたいということ、それから京都でやるからには学生さんをパネリストに招きたいという、ほとんどその2点でこだわって開催したような形だったんですが、パネリストというか、ご意見発表者の選定については事務局も大変苦労されたようで、そこのところは非常に感謝をいたします。結果的に学生さんが、ちょうど世界学生環境サミット in 京都の開催ということもあって、その実行委員長の上杉君が来てくれて、教育関係の勉強をしている竹下君も参加してくれたということで、大変ありがたく思っています。

それから、今お話があったように京都市地域女性連合会の佐伯副会長にご発言いただいたんですけども、会長以下、会場にはこの会員の方たちが本当に百余名参加して下さって、ほとんどこういう経験のない方たちだったようです。それで、難しいという反応と、それから勉強になったということと、自分たちも意識を高めなきゃいけないと、そういうふうを受け取っていただいたのはうれしかったなというふうに思っております。

○小沢委員 一つつけ加えていいですか。学生さんが2人でよかったというお話があったんですけども、今の学生は、昔の学生さんとは違うんですね。非常におとなしいというか、お行儀がいいというか。でも、この間何か、たまたまテレビで、お笑い系の人が行って京都大学で議論するというのをやっていたら、相当いろいろな意見が出ているんですよ。激しいというより本質的な。あれで見ると、おとなしくない学生さんもいるんですね。そのような学生が来ればおもしろかったなと、楽しみだったんですけども、いませんでしたね。

○中村座長 最近NHKなんかも深夜にやっていますけど、結構高校生、大学生のディベートというのが、自分たちも自主的にやっているし、メディアでもそういう場を与えたりしているので、結構論客はいるんですよ。そういう議論をするということに長けている人が。

○小沢委員 わあわあ言うだけじゃなくて。

○中村座長 一時期は余り論理的じゃなくて、わあわあ言うだけというのが多かったんですけどもね。そういう人たちも確かに存在しています。そういう人たちがこの原子力の

問題や地球環境の問題に参加していろいろ意見を言ってくれと、大変それはうれしいなとは思いますがね。

○小沢委員 ありがたいですね、先行きのことを考えるとね。残念でした。そこはちょっと残念でしたが、ないものねだりかもしれません。

○中村座長 でも、浅田さんが言われたように、オーディエンスにも学生さんが来るような形がもしできれば、期待はできますよね。もともと発想したのは、私が五、六年前に京都でやったときというのが、パネリストはほとんど学生だけで、会場もサークルの連中が来てくれたので、ほぼ学生でやった経験があったので、それを再現したいなというのはあったんですけども、残念ながら今回はご指摘のとおり形で、できなかった部分がありますけれども、これからの方向として。

○小沢委員 そうですね。

○中村座長 それと、テーマのことも、吉岡委員以下、皆さんもおっしゃいましたけれども、ちょうどサミットの前ということもあって、それからサミット後ということを見ると、今年度のテーマとしてはこれが適当だろうということで始めたと思うんですけども、ご指摘のように、最初にもう少し地球温暖化防止と対策としての原子力、あるいはほかのエネルギーとの比較というようなレクチャー的な部分がもう少しあってもよかったのかなと。結果的に、参加者の方がああいう、余りそういう情報に接する経験のない方たちだったので、そうすると、もう少しそれはやったほうがよかったのかなという反省はありますね。

今後開くときに、どういう方たちが来てくださるかということがあるんですけども、でも、東嶋さんがご指摘になったような、事実関係をまだ知らないということを前提に、少し始まる前とか、あるいは途中でもいいですし、何かしらのそういう情報を共有してもらおう場というのを作りながらやっていくというのは、やっぱり改めて大事なのかなというふう感じた次第でしたね。

どうぞ。

○小川委員 資料1-2号の7ページの下からお二人目のご意見なんですが、この種の会合で市民から意見を聞いたとは絶対に言わないでくださいと、この言葉はどのように解釈すればよいのでしょうか。

○浅田委員 市民全体とは思ってくれるなという、そういう意味です。

○小川委員 ああ、そういうことですか。

○浅田委員 市民参加懇談会だから。

○小川委員 市民から意見を聞いたとは絶対に言わないでくださいと私たちに要望しているということですね。

○中村座長 そうそう、そういうニュアンスです。

○吉岡委員 いや、必ずしもそうではなくて、政府が開く会というのは、例えば原子力施設の立地に関する公開ヒアリングというのがあるって、例えばその場合、市民から意見を、会を開いて聞きました、それならこれから進めましょうと。聞いたということを一種のアリバイにして進めるという、そういうような印象を持っておられる方が多いと思うんですね、政府関係のイベントというのは。その意味なんじゃないでしょうか。要するにこれを使って何かするんじゃないだろうかという、そういう不安感があったので、出たんじゃないかなと思います。

○中村座長 それはご本人に聞かなきゃわかんないですけども、印象としてはやっぱり両方のニュアンスがあると思いますよ。でも、吉岡さんが言われることも含めて、浅田さんが言われたのと僕は同じ受け取り方をしたんですけどもね。ここで声を聞いたからといって、これが市民の声を聞いたということは思わないでくださいよというニュアンスが強かったとは受け取りましたけれどもね。その背景が吉岡さんが言われるようなニュアンスなのか、単純にこれは一部の意見でしかないよという意味だったのか、その辺はちょっとわからないですけどもね。でも、それはちょっと意識しておかなきゃいけない部分ではありますよね。

○小川委員 わかりました。

○中村座長 それじゃ、京都の総括等を踏まえて、この後考えるところの提案も出てきたと思うので、次へ進んでよろしいでしょうか。

では、一応、京都の開催結果のまとめは以上ということにして、いよいよ次回以降ということになってくるわけなんですけど、どういうふうにお話を聞いていったらいいかがあれなんですけど、次回以降の地方市民懇開催について、まず資料を事務局に用意してもらいましたので、そちらのほうの確認と説明から参りましょうか。

○事務局 参考資料のご説明ということで。

○中村座長 そうですね。

○事務局 参考資料を2つお配りしております。特に原子力政策の最近のトピックということで、全般に最近の動きをご紹介するというものをご用意させていただきました。

まず、参考資料1のほうでございますが、トピックとして幾つか簡単にまとめてみたのですが、原子力発電所の関係で言えば、現在運転中は55基、着工中のものを含めると69基ということで、ことし5月、これは前の市民懇以降くらいのイメージでまとめたんですが、5月には大間の発電所が着工になっているというような話がございます。それから、19年度の設備利用率が出ていまして、60.7%。これは中越沖地震の影響もあって大分下がっているというようなことでございます。それから、耐震関係では各電力会社がバックチェックというのを実施しておりまして、柏崎の安全についても現在確認が進められています。それから、これは保安院のほうですけれども、保全プログラムに基づく新検査制度というものが動いてございまして、省令改正がなされたところでございます。

それから、核燃料サイクルのところでございますが、青森県六ヶ所村の再処理工場のほうですが、現在の予定では来年2月にアクティブ試験を終了させるということで、苦労しているようでございます。それから、もんじゅにつきましても来年2月ということで現在作業を進めていると聞いてございます。それから、プルサーマルに関しましては、後ろにも資料をつけておきましたけれども、次のページに日本地図をつけてございますが、許可が出たものですか地元申入に至ったものなどが出てきているところで、着実に進んでいるようでございます。

それから、放射性廃棄物の処理・処分につきましては、現在、高レベル廃棄物の最終処分地の公募をかけているところでございまして、資源エネルギー庁を中心といたしまして、各地方に行つての説明会ですとか、さまざまなワークショップ等を実施しているところでございます。それから、研究所等の廃棄物につきましては、日本原子力研究開発機構を実施主体とするための法律改正がことし5月にございました。

それから、放射線利用関係というところでは、この前の学習指導要領の改正がございましたけれども、エネルギー教育のところは大分充実してきたのかなと思います。例えば中学理科で放射線というのが追加されたというようなこと。実際にこれが動き出すのはまだまだもう少し先のようにございますが、これを受けて、いろいろところで勉強されている方がふえているやに聞いてございます。

それから、研究開発のところでは、ことしの5月でございますが、総合科学技術会議のほうで環境エネルギー技術革新計画というのを策定いたしまして、さまざまな環境の技術を並べまして、短中期的、それから中長期的、それからそのためにいろいろな必要とされるものなどを検討した計画をまとめてございます。その中に軽水炉の高度利用ですとか次

世代軽水炉、それから高速増殖炉サイクル技術といったものが位置づけられたところがございます。資料は後ろ1枚めくっていただいたところにポンチ絵をつけてございますので、見ていただければと思います。

それから、今月中旬から大強度陽子加速器（J-PARC）が動き出すということでございます。

それから、国際関係でございますが、ことし7月の洞爺湖サミットでも原子力については言及をされてございまして、これをひっくり返していただいて一番最後のページでございますが、さまざまところで地球温暖化対策としての原子力ということを言われているところです。左下のところの議長総括の中では、原子力について関心を持つ国がふえているというようなところと、それから日本としてのイニシアチブをとっていく、3Sと呼ばれるようなことに立脚してイニシアチブをとっていこうと提案したというようなことがサミットの中で取り上げられたところがございます。

また、世界各国でも発電、計画としては進んでいるところございまして、受注競争などが活発になっているところがございます。

参考資料1は以上でございます。

それから、参考資料2のほうでございますが、市民懇以外の広聴活動についてちょっとご紹介をしたいと思います。これも前回の市民懇以降の動きということでご紹介してございます。それから、これから予定も含めてご紹介してございます。

まず、昨年度が一番最後日ですね、3月31日に放射性廃棄物をテーマとしたご意見を聞く会というのを開催いたしました。場所は宮城県の仙台市でございます。政策評価部会という部会がございまして、これのとりまとめに当たって、ご意見を聞く会をやるというルールでやってございます。このときは94名の方に一般参加いただきまして、ご意見をいただいたところでございます。

それから、2番のところでございますが、これは核融合専門部会という部会がまたございますけれども、そちらのほうで現在、核融合研究開発に関して評価をしてございます。これにつきましても先日、つくばのほうで開催したところでございます。ちょっと参加者は少なかったんですが、このような形でやりました。

それから、今後の予定なんですが、政策評価部会におきましては現在、エネルギー利用というようなテーマで検討を始めてございます。これは10月から始めたのですが、これにつきましては年度内を目途にご意見を聞く会を開催したいと考えてございます。

それからもう一つ、4番といたしまして、研究開発専門部会という部会もことし8月から動き出しているところでございます。こちらにつきましてもご意見を聞く会を年度内に開催したいと考えているところでございます。

参考資料1と2の説明は以上でございます。

○中村座長 というようなことで、ご説明がありましたように、皆さんと前回お会いして以降、幾つかのトピックがあると。これを踏まえて我々市民懇としてこれから考えていこうということになるわけですが、まずは今のご説明の内容の中でご質問とかございましたら。

吉岡委員。

○吉岡委員 ここに書いていないことの質問なんですけれども、文科省のある検討会が原子力損害賠償法の一部改正について議論をし、第一次報告というのを先般まとめたというふうに伺っておりますけれども、原子力委員会としてこの問題に関して何か主体的に検討するとか、どのようにかかわっていくのかについて、情報があれば教えてほしいというのが聞きたいところです。

○事務局 原子力賠償のお話をいただきまして、おっしゃるとおり文科省のほうで今検討を進めておるところでございます。

原子力委員会といたしましては、ことしの5月でしたか、検討を始める前に当たりまして、原子力委員会の決定をしてございまして、今回検討をするに当たっての留意点というのをまとめた上で、文科省はしっかりやるということでやった上で、文科省の検討がまとまったら、それはまたこちらのほうに報告をするようにというような、そういうようなことをしてございます。

○吉岡委員 ちょっとすみませんが、なぜ文科省で検討することになったのかというのは、どうですか。今まではそうではなかったような気がするんですが。

○事務局 原子力賠償に関する法律がありまして、その法律の運用をやっているのが文部科学省なんです。なので、その法律制度の仕組みという点で言えば、そちらのほうで検討していただいているということでございます。

○吉岡委員 わかりました。

○中村座長 よろしいですね。

ほかにはよろしいですか。

○小沢委員 柏崎はどうなっているんですかね。

○中村座長 柏崎の話はちょっと待ってもらえますか。この後ご相談する中で、そのことの現状説明をしなきゃいけないところなんです。知事も何か議会で回答しているし、市長も記者会見で発表していますので。ありますね。

○小沢委員 コマーシャルを見ていると、まだまだのようですね。

○中村座長 そうですね。それでは、そのことも含めてなんですけれども、これからの地方での市民参加懇談会の開催ということになるんですが、どうしようかなと思っているんですけれども、事務局で一応たたき台の案をつくってくれているんですが、事務局のほうの説明を聞きますか。それから討論にしましょうか。それでは、この開催案をご説明ください。

○事務局 資料第2号をごらんください。こちらのほうに次回案というのが書いてございます。

時期としては1月下旬から2月中旬ごろということで、テーマといたしましては京都の会議と同じテーマで考えてございます。場所をいろいろ考えたのですが、鹿児島県鹿児島市のほうでどうかと考えてございます。後ろのほうにめくっていただきますと、市民懇の開催実績というものがございますけれども。

○小沢委員 薩摩川内ではなくてですか。

○事務局 薩摩川内ではなくて、鹿児島のほうを今考えているんですけども、全体の日本地図を見まして市民懇がまだ行っていないところはどこだろうというようなことがまず一つございまして、それから地球温暖化というテーマで考えたときに、立地の県に直接行くのがいいのか、それとも少し消費のことも考えられるようなところのほうがいいのかということの両者を考えた上で、多少立地についての土地勘もありつつ、消費のこともわかるようなあたりのところで何かできないかなというのがございまして、あと日本地図を見た上で、まだ行けていない部分というようなところ等もございまして、今回、鹿児島というものを提案させていただいたところでございます。

それから、1ページ目に戻りまして、今回発言をお願いする方、何名かまたお願いするのかなと考えてございまして、ちょっとまだ具体名は出てきてございませんが、地域において環境活動を実践している方ですとか、京都のときに女性の団体をお願いして、たくさんお客様を連れてきていただいたりしたというのがございますので、女性団体の方にまたお願いできないかなということ、それから地元のメディアの方をお願いするというのも一つの方法としてあるのかなと思います。それから、前回の京都でも教育の話は結構話題に

なったところでございますので、エネルギー教育にかかわっているような方にも何がしかお願いできないかなということを書いてございます。

それから、4番の開催プログラムのところでございますが、まずテーマの背景説明のところでございますが、地球温暖化と原子力に関する現状を少しご紹介し、それからサミット後の動きなども少しご紹介するような形で、まず簡単にやった上で、これは前回と同様に発言者のご意見発表、それから専門委員との意見交換、そして第2部として会場の参加者からご意見をいただくというような構成で考えてございます。

5番のところでございますが、時間といたしましては、京都の会議でもご紹介しましたが、平日の開催というところをどう考えるかという、これも両論あるかと思うんですが、とりあえずの案といたしましては、土日午後というのを一つ上げてみましたので、ご意見をいただければと思います。

それから、会場のレイアウトは前回と同様の、パネリストを参加者が囲う形式。参加募集人数は150から200名程度という案を考えてございます。

それから、2ページ目のところ、※で書かせていただきましたが、こちらのほう、ちょうど今、小沢先生からも柏崎の話が出ましたけれども、中越沖地震をテーマとする市民懇につきまして、これは昨年度2回開催したところでございますが、地元のほうでできないかという話があったかと存じます。

それにつきましては、現在どういう状況かと申しますと、現在、柏崎の発電所の耐震安全性、特に7つ号機があるうちの7号機が一番いろいろなところが進んでございまして、地震の揺れの設定をどうするかというところ、それからそれに乗っかっている揺れがどれぐらい出るのかという評価、そして地震によって若干ダメージを受けたものは大丈夫なのかというチェックをしていくような作業、それを逐次、原子力安全・保安院などにもいろいろ計画を出しつつ、確認をしてもらいつつ、ちょっと進めているところでございます。

現在、一番新しいところでは、7号機に関して言えば、全体それぞれの項目についての確認をある程度やった上で起動試験というのをやらなきゃいけないんですが、それについての計画を東京電力が出したと聞いてございます。

それから、現地のほうでは、原子力安全・保安院ですとか東京電力のほうで、ちょうど立ち上げの問題もあるので、住民説明会をかなり頻繁に開催しているところでございます。聞いてみますと、今月なんです、昨日、原子力安全・保安院が地元のほうで、それから今週10日、12日と聞いてございますが、これは柏崎と刈羽を1回ずつやると聞いてご

ざいますが、住民説明会を今やっております、これからかなり密に住民説明会をやっていこうというところで聞いてございます。

そういう状況でございます、現段階において、ちょうどこれから密に住民説明会等が行われるような状況の中で、安全規定を所管していない私どものほうで市民懇を開催していくというところがどうかというところ、なかなか有効にやるのは難しいのかなというふうに考えてございまして、こういう形で案を出させていただいているところでございます。以上でございます。

○中村座長　ということなのですが、当初の計画で年度内に3回程度の開催ということだったので、押し迫ってはいますけれども、年度内にあと残り2回の予定というのは、やっぱりちゃんとやりたいというふうに思っているんですね。

1つは地球温暖化防止と原子力というテーマ、これはもうことしの方針として決まったので、これを一つやるのはいいと思うんですが、もう一つが柏崎刈羽での開催ですね。昨年度、地元の皆さんが横浜と富山と、2回、我々に協力してくださって、ご発言いただいた。そのときの約束なわけですね。当初の話では震災から1年ぐらいのところで、皆さんにとってどういう情報が必要だったのか、その情報伝達はどうだったのか、何が不安だったのか、その後何を期待したのかというようなことを聞きましょうという暗黙の了解のもとに行きますよという約束はしていたんですね。ですから、その予定から言うとやっぱり、もうとっくに開催されていなければいけなかったわけで、そういう趣旨で言うと、やっぱりちょっと時期を逸してしまったということが一つあります。

ただ、このことについてはもう少しじっくり話をしなければいけないと思うので、開催計画についてはちょっと話をひっくり返して、事務局がつくってくれた案のとおり、まず次の開催、地球温暖化と原子力をテーマで立地、隣接、消費県という感じなんですけれども、鹿児島市というのが。薩摩川内とそんなに距離は離れていないので、薩摩川内の方も来てくださるだろうと。薩摩川内でやって鹿児島の人に来てもらうよりはいいかなと私も思いますけれども。まずは鹿児島市での開催計画について、何かご意見ございましたら、まずそちらをちょっとお伺いしていきたいと思います。

吉岡さん。

○吉岡委員　福岡からは新幹線も部分開業しているので、2時間余りで行けます。ちなみに、先ほど最近の学生の話が出ましたけれども、九大で21世紀プログラムというコースがあって、そこで反応性のいい学生を入れて育てるということで、つまり基礎学力もさる

ことながら、何か見知らぬものを突きつけられた場合でもそれなりに的確に反応できるという、スピードもさることながら反応の的確性も重要だという、そういう学生を育てているわけです。そこで1年生を相手に今年度、地球温暖化問題の一日集中講義を4回行なって2単位を与えるという授業をやっておりまして、4人の講師それぞれについてレポートを書かせるんですけども、そのレポートの一つが例の原子力ビジョン懇談会の報告書を批評せよという問題を出して、年末に回答が出てくると思うんですけども、そういうことで、そういうふうに特別に栽培された学生さんたちがいます。もちろんビジョン懇談会レポートの弱点とか、私はいろいろ教えますけれども、そういう読み方も教えた上で、君たちの独創的な意見を聞きたいという、そういうことをやっているのだから、学生を呼ぶならうちから多少は期待していただいて結構でございますということです。

○中村座長 先に結論のほうが出ちゃったけども、京都の皆さんの総括の中で、やっぱり発言者に次世代をとというのは圧倒的に多いので、やはり鹿児島でやるについても、福岡から延々、九州大学の学生さんに来てもらうのもいいですけども、鹿児島大学もありますし、九州全般の学生さんでもそれは構わないと思うんですけども。学生というのは、やっぱりポスト京都としてはぜひ入れて議論したいところですよ。

○小川委員 発言者にですか。

○中村座長 発言者にですね。これはやっぱり候補として学生さんというのは入れたいところですね。

それと今あった地元メディアというのについてどう思われますか。ちゃんと発言できる方っていらっしゃるんですかね。

東嶋さん。

○東嶋委員 場所については鹿児島市で賛成です。

発言者については、今おっしゃっていただいたように、大学生を入れるということ。

地元メディアは、私これ聞いた瞬間になぜ、と思ったんですけども、メディアは、これはお仕事ですし、わざわざ発言する場を与えなくたって発言の場を持っているのですから、ふだん発言する場のない、なおかつ情報の受け手である方がどのように受け取っていらっしゃるかということを知りたいので、ここに入れることはないんじゃないかと思いません。入れることは反対です。

○中村座長 それについてはどうでしょう。私もメディアというのはやっぱりちょっと、メディアから広聴してどうしようというところがあるので。メディアの伝え方について議

論するのはあり得るけれども、どうなのかなと思います、皆さんはどうですか。

小川さん。

○小川委員 確かにメディアの意見を聞いてもどうなのというお話はあるかもしれませんが、鹿児島でやるということで、申しわけないんですが、この地域はどの新聞が購読されているでしょうか。

○中村座長 南日本新聞だと思う。テレビも新聞も南日本は結構大きいよね。

○小川委員 意外と地方都市というのは地域の新聞さんが強いということで、本当に興味の範囲なんですけれども、私は西日本のメディアの方がどういう視点かなというのは、ちょっと興味はあります。会場からの発言でも構わないんですけど。

○中村座長 来るかなというのがね。九州の場合だとローカルが西日本新聞と、それから南日本新聞というのがかなり地方紙の中で、購読されていますよね。でも、北海道とか京都とか中日とかいう規模の新聞ではないですけどね。

○吉岡委員 中間には熊本があるよね。

○中村座長 熊本日日がありますよね。ですから、ローカルというか地元紙は、しっかりしたところはあることはあるんですけどもね。

○小川委員 先日、メディアの関係の方のお話を聞いて、地元の皆様方はほとんどが地元紙を読んでいるということなので、読売とか朝日とかという、そういうものではないわけですよ。そういった地方紙の影響を受けているということだと思いますので、ちょっと地方紙の論点に興味を持ってもらえればと思いました。

○中村座長 ほかの皆さん、いかがですか。

○小沢委員 というか、どうして事務局から、今まで地元メディアというのは発言者にならなかったと思いますが、なぜわざわざこの鹿児島で地元メディアというのが出たんでしょうか。

○事務局 ここはアイデアとしてお示ししたところなんです、いろいろな科学技術、環境であれ、科学技術であれ、原子力であれ、難しい情報を一般の方に伝えていくという立場を、地元をベースにされている方からお話を伺うというのは有用なのかなということをお考えまして、こういう形で出させていただいたということでございます。

○小沢委員 直接抱え込もうというわけではないのね。

○中村座長 正直なことを言って、余り僕も意図はわからないですよ。これで、地方でやると18回目になるか19回目になるか、そのぐらいだと思うんですけども、それま

で一回もやってこなかった発言者を今入れるという意味が、いま一つ僕もわからないんですけれどもね。

○小沢委員 大体今までのところだと、賛成したり、反対したりという人たち、非常に厳しい論評をする人たちというは地方紙でもわかるじゃないですか。鹿児島は遠くてわからないから、ちょっと今のうちに手つけておこうということじゃないの。

○中村座長 そういうことじゃないと思いますよ。余り深い意味は多分ないと思いますよ。

○近藤委員長 私どもは、政策評価に係るご意見を聞く会で地域のメディアの方にご意見の開陳を求めたことが何回かあり、意味のあるやりとりができた記憶があるものですから、担当者にそういうことも考えられるよといったので、書いてあるのです。

すぐに思い出せるところではあるんですが、新潟市の方にお話いただいたことと、それから四国高松市での会合がありますが、後者ではの地元の小さなミニコミ誌に近い記者に大変きついことや質問を、ですから、取材されているというか、彼がふだん原子力安全行政に対して持っている疑問をば一つとぶつけてきたと思ったので、こちらも所掌範囲ではないのですが、どんどん答えていったのです。やりとりとしては多少かたよった内容になるけれども、その意見や質問は、ふだんその人が書いていて、地元の人もどうなっているかと思っていた可能性があると感じられましたので、その点では市民を代表して質問していると思って対応したわけです。結果として、政策に関するご意見を聞く会であったんですけれども、意味のあるやりとりができたと思った記憶があります。

ですから、この紙は市民の代表的な意見を聞くという趣旨からみて、それが適切ならそうして頂いても結構ということでとりあえずの考えをお示ししているだけですから、そこは無視して頂いて、皆様が最善と思うことをとの関係でお決めいただくことが肝心かとはだと思います。

○中村座長 いわゆるご意見を聞く会のようなところで、各界いろいろな方というときには、メディアというのとは一つあるなと思って、そのことだったんだろうと思うんですけれども、我々のスタンスは、ちょっとやっぱりメディアというのとは、論説の人なのか記事の人なのかにもよるけれど、ちょっとやっぱり見えないところがあるなとは思いますがね。

○小沢委員 パネリストじゃなくて、地元に来て聞いていて質問なんていう地方メディアの人この会では今までありませんでしたね。

○中村座長 ないですね。取材には来ていましたけれどもね。

○小沢委員 主催するのはかつてありましたね。賛成、反対両方集めて、地元のメディアが、主にテレビ局とか新聞社ですけれどね。あれはまた、こことは別に民間がやるんですから関係ないんですけれども、ああいう積極的な参加というのは今、余りないみたいですね。主催しちゃうというほどの。新潟なんかも新潟日報なんて結構大きいのに、全くそういう動きはないですね。

○中村座長 ならないですね。だから、エネ庁なんかで、シンポジウムで討論会をやったりというときに地元紙の論説委員が出たりというケースは、それはありましたけれどね。

○小沢委員 これ何か特別に鹿児島出身のメディアの方がいるのですか。

○事務局 いえ、特別な意図はございません。

○小沢委員 強力なオピニオンリーダーがいるとか何とか情報があるのかと思ったけど。まあ、どっちでもいいですけどね。

○中村座長 優先順位としては、やっぱり低いんじゃないかと思うんですよね。それより、そういう女性で活動されている方とか、女性の団体、女性に限らないですけど、そういう団体活動をしていらっしゃる方、それからやっぱり学生さん、それから、いわゆる教育の話は必ず出るので、何らかのエネルギー教育について語れる方というのは欲しいなという感じはしますね。エネルギー教育、できれば実践経験のある方なんかでね、いらっしゃると、大変聞いてみたいなというところは。

○小沢委員 知りたい情報は届いていますかというようなことだと、例えば取材に行ったら取材拒否されたとかいうような話をする人が一人ぐらいいてもよかったけど、このテーマだと、そうですね、余りこの話ばかりいつまでやってもしょうがないけど、どちらでもいいですね。ただ、あんまりしゃべらない人ばかりじゃ困っちゃうから。ですから、特殊な情報だけ持ってくる人もまた困るし、栽培された人が来ても困るし、なるべくナチュラルに来ていただきたい。

○中村座長 ですから、発言者については、小沢さんが言われるように、かなりそういうバランス感覚というようなものを意識しなきゃいけないと思うんですよね。でも、会場からの発言は、これはどんなテーマにしようが、これを言いたいというのを持っている人は必ず来て言うわけなので、これはこれでまた止める気もないですし、あおる気もないんだけれども、それはそれでご意見として伺いますけれども、最初の発言者のほうというのはある程度やはりこちらの設定したテーマについて、それぞれのお立場らしいご発言をいただきたいというふうに考えていくと、やっぱりちょっとメディアというのは優先順位がだ

んだん下がっていくのかなというふうには思いますね。これから実際に人選を進めていただく中で、またちょっと変化も出てくるかもしれないけれども、優先順位としてはやはり地元でいろいろな活動をしたり、意識を持っていらっしゃる方たち、それから次世代の人たち、こういう方たちをやっぴり優先という感じでしょうかね。

○吉岡委員 あと、冒頭で、私の最初の発言にかかわるのですが、自治体、つまり鹿児島県ですね、鹿児島市だと変かもしれないけれども、地球温暖化対策の長をやっている環境局長とか、恐らくそういう立場の方ですけれども、鹿児島はどういう実績が上がって、これからどういう見通しかということをやっぴり話してもらおう方がいいと思う。パネリストで呼ぶかどうかはよくわからない、パネリストでもいいかもしれませんけれど。

○中村座長 ただ、これは僕の経験ですけど、経験の一つは、関東一円の県と市町村の環境関係の自治体のホームページを全部チェックして、その中からヒアリングをやって、そのレポートをまとめたという経験があるんですけれども。それから、ついこの間も、神奈川県相模原市が政令指定都市に申請するというので、あそこの環境部長にもお会いして自治体としての環境政策という話を聞いたんですが、原子力の「げ」も出てこないですね、どこからも。

結局、新エネをどうやるかというあたりに、現状は、自治体はほとんどシフトしているんですよね。ホームページを見ると大体わかるんですけれども、やはり自治体の施設に太陽光パネルをつけたとか、壁をツタで覆ったとか、それから市民へのこういう働きかけの活動をしているとかという、そういうレポートはあって、ヒアリングでも聞いたんですけど、「日本のエネルギー政策の中で自治体が果たすべき役割は」みたいなことをちゃんと発言できる場所は本当にあるのかなという感じなんですけれどもね。その辺どうでしょうね。

○吉岡委員 それについては、私の個人的意見ですけども、企業に対してもいろいろな形でインセンティブや罰則を与えるというようなことが海外では実施されているし、日本でも検討が進められていると思うのですが、やはり自治体に関しても今後、同様のインセンティブと罰則というような形でやるのが適切であるというふうに私は、「やるべきだ」に近いかもしれませんが、そのように思っていて、そうすると、自治体としても恐らくは電力については案分という形なんでしょうけれども、やらざるを得ない。直接、九州電力がどうすべきであるとか、そこまで命令は、自治体としてはできないとは思いますが、九州電力の電力の何%を鹿児島県あるいは鹿児島市で使っているというデータ

があれば、パーセンテージで九州電力の排出量からおのずと鹿児島県や鹿児島市の電力消費分の排出量計算はできるわけで、そういうものも含めて、やはり温暖化対策ということについての評価、将来的にはそれに基づく施策、措置ということを行っていくのが適切だと私は思っています。それについて原子力委員会が先走るというのも何か変な話ですけども、そういう意識はやっぱり持たなければいけないのではないだろうか。近くそうなるかもしれないぞということは。

○中村座長 いや、ですから、自治体にそうやってレクチャーしに行くならいいですけど、実際に今そこまで意識を持って罰則とかインセンティブだとかを考えて、実行力があるのは石原知事ぐらいでしょう。九州はどうなっているか、鹿児島はどうなっているかわからないですけども、僕の知っている限りでは、自治体の環境への関心というか、それと市民生活というレベルは、ちょっと僕らが聞きに行く内容のレベルには、今ないように思うんですけどね。

ですから、自治体も、声は聞いてみたいけど、どうなのかな。具体的に、例えば薩摩川内市なり鹿児島県なりが原子力立地ということを背景に、何かそういうものを自治体として持っているなら、ぜひそういうものを聞きたいというのはもちろんありますけれどもね。それはちょっと実態がわからないと、呼んでもしようがないかもしれないという部分もありますよね。

○近藤委員長 地球温暖化対策については、自治体には自治体としての取り組みが当然あるわけで、いろいろなことをお考えになっていると思います。私もいまいろいろな非立地県の知事さんにお会いして、そうしたことについて実情を伺ったりしてきていますが、それぞれ、お話のとおり、いろいろ工夫をされたり、お考えになっていたりとはいえるところだと思います。

ただ、原子力発電について言えば、原子力政策は国策ということで安全に進められるようにしっかりやってくださいで終わっちゃうんです。それはそれでむしろ当然というか、それはそれで僕はいいんだと思うんです。

ですから、そこでこの問題を取り上げることで期待しているのは、地域社会が地球温暖化対策にいかに取り組んでいるか、お考えになっているかを理解し、それで原子力もそれに対する貢献を担っていることについて、どう考えますかという質問を通じて、この貢献を確実にするためにはどうしたらいいか、お互いに意見を交換する、やりとりすることによって明らかにしていく。そういう工夫をすればいい議論ができたといえることになるの

ではないかと思えますけれどもね。

○小沢委員 いい議論にならないと思えますね。

○近藤委員長 ならないですか。

○小沢委員 極めて政治的な配慮をしないと、原子力に関しては地方自治体は話ができない状況ですよ、実際に。それで、いろいろ質問して問い詰めたところで、ここまでしか言えないと。エコといえば電気を消しましょうとか、排気ガスをなくそうとか、何デシベルですとか、そこに戸を立てて測るのとか、主にごみを分けるとかの問題ですよ。

今、ペットボトルが余っちゃって、集めたって大変なんですよ。だけど、集めろ、集めろ、集めろと言われて、がらがら集まっちゃって、それをどうするかということで目いっぱい、とてもじゃないけど原子力とその問題を考えろといったって、今のところ無理でしょう。鹿児島はわかりませんよ、もしかしたら先進地区かもしれないし。

○中村座長 立地ではありますけれどもね。

○小沢委員 私の知るところは、今あちこち行きますけれども、港区だってできないですよ。だから、ちょっと自治体は、来てくださる方がいて、実はエコの問題でこういうことに困っているというようなことを聞くというならいいけど、ちょっと違うんじゃないですか。

○中村座長 結果的には、委員長が県知事と会った結論と多分同じで、原子力は国策ですから、我々のやれる範囲で。

○小沢委員 トップが国策と言っているのに。

○中村座長 もうどうしようもないことだよ。

○近藤委員長 いや、国策だって地域社会の協力があって成り立っているのですから、皆さんでそれを実現するためにしなければならぬことをお互いに確認することも大事なことでないですかね。

○松田委員 委員長に賛成です。

○近藤委員長 吉岡委員のおっしゃったことが、そういうことで、方法論としてこれだと決めをうつのは責任とれないのは承知の上で、いろいろなやりとりの中でそういうことかなと確認することになっても、それはそれでいい。問い詰め約束するとならないと気が済まないということであれば、市民参加懇談会はそういう場じゃないことはおわかりいただけると思えますので。

○中村座長 浅田さんは。

○浅田委員 自治体は、例えば大田区なんかですと、東工大があるせいか、中学校から原子力関係の案内のちらしをもらってくると聞きますが、自治体によってはもう全然だめで、見学会の中に原子力関係施設の原子力が入っているだけで、これは引っ込めてほしいと。節約講座にしてほしいとか、そういう感じですので。

○小沢委員 ジェンダーと原子力はタブーなんですよ。

○浅田委員 そうですね。

○小沢委員 ジェンダーは大変ですよ。

○浅田委員 今回もしそれに触れるとすれば、環境活動を実践している方に環境家計簿というところを出していただいて、環境家計簿だとCO₂換算係数で、原子力の比率によって各電力会社も全然係数が違ってくるので、ここら辺のところをもし言及してくださる方がいるといいかなというふうな気がします。

私も日ごろから講演に行くときはその地域の電力会社のHPにある環境家計簿を調べ、その係数が違うよと、どうして違うかという、原子力発電の比率が違っていてという話をするんです。もし環境活動を実践している方がそこら辺のことを出していただければ、ちょっと電力会社のことも、環境家計簿は自治体がやっていますので、そこら辺で出していただけるかなと思いますが。

○中村座長 そうですね。地域で環境活動の方が、あるいはその女性団体の方でもいいんだけど、自分たちの活動の中で自治体とどういうコミュニケーションを持っていらっしゃるか、これを必ず言及していただきたいというふうにお問い合わせという手はあるよね。それを聞く分にはいいけれども、自治体の人間を呼んでというのは、どうもいま一つなんですよね。

ただし、さっき言った関東一円のヒアリング調査の結果で、一般市民の方たち、町民の方たちを含めて、自治体の広報誌というものが情報伝達手段として非常にランクが高いんですよ。それは身近なごみの問題なんかがあるということも背景にあるんだと思うんですけども、こういう環境問題やエネルギーの問題の情報を得るとしたらどこを信頼して一番多くとりますかといったら、大体、広報誌と答えたのが多かったんですよ。

だから、そういう意味で、自治体の存在というのは極めて重要だとは思いますが、我々が一人の発言者としてそこまで聞くのもどうかと。やるとなったら小沢さんが問い詰めちゃうので、それは我々の役割じゃない。我々は議論したり問い詰めに来たんじやありませんよと言って行くんですからね。

○小沢委員 だけど、京都でも古紙回収をやっていますとか、食べ物も、トマトは冬につくっちゃいけないとかというような意見があったじゃないですか。普通の地域というのは、だから、そういうのが悪いと言っているんじゃないで、今言えないでしょう、原子力問題って。東洋町になっちゃ大変だってみんな思うだろうし。

○中村座長 そこまではないかなと。ちょっと話が広がり過ぎちゃっているけれども、どうでしょうね、自治体を発言者として呼ぶというのは、一応これからの検討事項ではあるけれども。

○小沢委員 立地でいろいろな問題を抱えているところで苦勞しているところの人たちの話があるならまた別だけれども、苦勞話を聞く会でもない気がするし。

○小川委員 薩摩川内ではないですが、県知事としては立地県ですよ。川内3号機の問題もあるし、鹿児島自体は多分、原子力比率で電気は原子力100%かどうかわかりませんが、当然あそこで200万キロぐらいあるわけですから、全部カバーはできるかなと思うのと、イメージですけれども、桜島があるから地熱もできるかなとか。

○浅田委員 地熱はあります。

○小川委員 あと、太陽光もすごいだらうとか。そういう意味では、リニューアブルエネルギーという面では先進地域かななんて思ったりはしているんですけども、違いますか。

だから、すごくCO₂フリーではあるんじゃないかなと、電気については。そのことを自治体の方が意識をされていて、そののところに意味を見出していますとか、そういうことを思っていらっしゃるのかどうかちょっとわかりませんが。

○小沢委員 風車に力を入れているとかさ、直接的なところだったらぜひお願いしたいけど。

○小川委員 ああ、そうか、台風が来るから風車はないのかな。

○吉岡委員 いや、ありますよ。

○中村座長 あるよ。

○吉岡委員 九州は北海道、東北に次ぐぐらい活発です。。

○小川委員 そうしたら、本当にますますリニューアブルエネルギーの都みたいになるかもわからない。

○中村座長 そういう認識はないけどね。

○小川委員 同じテーブルに着くということがいいと思うんですけどもね。

○近藤委員長 地球温暖化を考える会になりそうですね。

○中村座長 地球温暖化を考える会になってくれれば、それはそれで大変結構なことだと思うんですけども。

○小川委員 その中で原子力ということも、タイトルで原子力とあるんだから。

○近藤委員長 ちょっと余計なことかもしれませんが、この発言者というのは、ご意見発表者ですから。

○中村座長 発表者ですね。

○小沢委員 何でもいいですよ。苦勞するんだから、事務局が。事務局がもうこれというものだったらいいじゃないですか、何でも。

○近藤委員長 いや、どうぞ、どうぞ。それほど苦勞して考えたかどうかはちょっと。

○中村座長 いや、だけど、自治体はどうですかね、本当のことを言って。小川さんがおっしゃるように、そんなにいろいろな話が聞けそうだったら、それは聞いてみたいけど、あんまりそういう情報は入ってきてないんだけどな。

○小沢委員 でも、おもしろいからいいけど。

○中村座長 でも、視点としてはおもしろくて、そういうふうにとらえたら、すごく何か発言がありそうにも思うけど、実際はどうかわからないので。ちょっとこれはペンディングですね。これからいろいろ情報網を駆使して人選に当たりますので、その中で、実は鹿児島県というのはこういうあれでというのが出てきたら、それはちょっとご発言の発表の機会というのがあってもいいかなとは。

○小沢委員 鹿児島大学の学長が風力のあれを立てるのに夢中になっているとか、何かそういうことがあればね。

○小川委員 鹿児島大学で環境関係がないのかななんて、ちょっと見ていたんですけどね。

○近藤委員長 オイルショックのときに、新エネでどーんと鹿児島大学、あのあたりに金をつけたんですよ。まだ研究者が残っているかも。

○中村座長 じゃ、まとめますと、地域環境活動等をされている方を発表者に。これはぜひですよ。できれば、自治体とどういうコミュニケーションをとってやっているか、協力関係なども聞かせてくださいと。それから、地域の女性たちが地球環境問題をどうとらえているか聞かせてくださいですよ。それから、何らかの形でエネルギー教育に関連されている方、あるいは実践されている方と学生さんと。ここまではぜひものですね。そこで、取材している中で、自治体について特にお聞きするに値することがどうも聞けそうだということになったら、その自治体も加えていこうと。地元メディアは今回は発表者とし

ては招聘しないと。その中で人選を進めるといような感じでよろしいですか。

それじゃ、それはよろしいですね。テーマも地球温暖化と原子力ということで。

あと、プログラムのほうなんですけれども、京都のご意見の中にもあったと思いますけれども、第二部というのが、本当に休憩を挟んでわざわざやるというのもあれで、それならトータルを短くしちゃって、一気に引っっちゃって、発表者の皆さんと委員とのやりとりがあって、それを踏まえて会場から聞いちゃって、少しコンパクトにして終わっちゃおうというほうが、特に今開催をウイークエンド、土日の昼みたいなことを考えているので、そうすると、そういうやり方のほうがいいかなという感じがするんですけど、その辺どうですか。あれ一拍入れて、さあそれじゃ会場からというのが問題となる点もある。

○近藤委員長 中村さんと合わないんだ、そこだけは。

○中村座長 そうですか。

○近藤委員長 中村さんはどうも第二部は余りお好きじゃないと思うんですけど、僕は第二部のほうに期待しているんです、本当は。だって、第一部はアレンジドですからね、会場の方にこれを聞いていただいて、ああよかった、勉強になったと書いていただくという趣旨じゃないでしょう、市民参加懇談会は。もともとの趣旨は、確か割と自由に会場からががん手が挙がってやりとりをするということだったと思うのです。京都の場合、特にほとんど会場の女性参加者は大部隊だったたけれども、全然発言しなかったでしょう。そして代表の方が最後にお礼を言って終わった。だから、市民参加懇談会じゃなかったと私は思っているんですけど、はっきり言って。すみません。そこはどうなんですかね。

○中村座長 どうなんでしょう。僕は嫌がってるわけではない。

○近藤委員長 苦勞しているという意味です。

○浅田委員 この開催時間3時間というのは、50%以上が「やや長かった」、「長かった」と言っているんです。

○中村座長 いつも言われるんだけどね、大体。

○浅田委員 京都でそうだから、鹿児島はどうですか。

○小沢委員 だから、おもしろくなかったのよ。長く、時間をだらだら使って、やりとりがないと集中してできないじゃん。おもしろいとあつという間に進んじゃって、もうちょっと聞きたかったということになるじゃない。ただ、間に物々しく休憩入れないで、そのまま続けちゃっても時間は構わないと思いますけど、だからカットとするのは休憩時間だけということになりますよね。

○中村座長 そういうこと。

○小沢委員 そのままやっちゃったほうがいいのよ。

○中村座長 何か仕切り直して、「さあ」というのが、一つは、僕はちょっとなじまないなと思っているんですけど。

○小沢委員 そのまま、今いろいろなご意見を聞いて、委員もいろいろ発言していましたがけれども、皆さんいかがですかと言ってすぐつなげちゃったほうが、もしかしたらいいかもしれない。

○中村座長 そのほうが少しは出てきやすいかなというところがあるんですけど、京都の場合はやっぱり、あの方たちはあまり質問する素地をお持ちでないので、手が挙がらなくて、まさに最後に会長が、勉強させてもらってありがたいということで終わってしまったので、そのところはちょっとね。

○小沢委員 どこからそういう人がわいてきたんだろうね。

○中村座長 でも、苦勞して集客したんですから。

○小沢委員 前はもう少しあったじゃない。この委員会は特別そういう人が来るのかな。

○中村座長 京都はやっぱりちょっと少なかったですね。ふだんはもうちょっとありますよね。どこでやっても。京都はちょっと異質だったですね、そういう意味では。その分、上杉君と竹下君のお二人、学生さんが前半で頑張ってくれたので、一応お土産は持って帰ってきたなとは思っているんですけどね。

じゃ、もちろん会場からのフリーなご発言を活発にするというのは第一義的にあるわけですがけれども、ただ、全体の構成としてはコンパクトにすると。だから、休憩はトイレや何かは自由ですということにして。

○小沢委員 あるいは、前半仕掛けをして、少しもめておくとかね。火種をまいておくとか。

○中村座長 それは小沢さんが手を挙げれば。

○小沢委員 今までもめたことない。

○小川委員 一人の発言者の後、5分、会場もいいですよというのは。質問だけ。

○中村座長 一人一人は、これはもうとにかく時間がかかるだけで、それとまた繰り返しになる可能性もあるでしょう。だから、皆さんとのやりとりについてもある程度まとめてにしているじゃないですか。あれ最初のころは、一件一件やっていたら、同じようなことのやりとりになっちゃうので、全部終わっちゃうと最初のころを忘れちゃうというのもあ

ったので、半分ぐらいご発言あったところでやりとりがあって、残り半分やって、やりとりがあって、トータルのやりとりがあって、そこから、じゃ続いて会場にと持っていくほうがいいかなという感じですね。

○小沢委員 そこはベテランにお任せして、近藤先生と中村先生の間で調整をしていただくと。微調整を。どっちでもいいんですけども、盛り上がる方向。ここで盛り上がりたいというんだったら続けちゃうとか、どうにもならないからちょっと休もうとか、いろいろあると思います。

○中村座長 それは、物理的に休憩をとらなきゃいけないというときは出てくるかもしれないですけどもね。そうすると、そういうような流れ的にはそういうことを心がけて、あと会場からのご発言を活発化するというこのことについて、マイクを何本かするとありますから、前に出てきてご発言くださいというのが、やっぱりちょっと出にくいと。あれは最初から発言を制限させるためにやっているんじゃないかという見方もあるぐらい。

○小沢委員 思いますよ、それは絶対。

○中村座長 マイクを持っていくというのは、その人が独占しちゃった場合、回し切れなくなるからというのはあって、ああいう方式にしているんですけども。どうですかね。会場からの発言は。こういうふうに僕らを囲んでくれているので、マイクを立てて、そこへ来てもらっているという今のやり方でいいですかね。

○小沢委員 どうしても立ってもらいたかったら、要所、要所に立てたらどうですか。できないですか、それ。要所、要所に立てればね。

○中村座長 今は要所、要所に立てている。

○浅田委員 4カ所くらい立てている。

○小沢委員 それじゃ少ないんじゃない。

○近藤委員長 少ないかな。

○小沢委員 前はこっちに出てきていたでしょう。

○中村座長 いや、要所、要所ですよ。やるとしたら、今四つ角にあるのを真ん中に1本ずつやって6カ所にするかぐらいだと思うんですけどね。

○浅田委員 コントロールがきかないということだから、確かに発言を制限しているんじゃないかというご意見どおりのようなものですよ。

○中村座長 逆に、そのことについては、確かにハンドマイクを渡しちゃうと収拾がつかなくなる例というのは多々あるので、それはやっぱり発言する方の責任において、前に出

てきていただくというのは、形としては悪くないなとは思っているんですよ。

ただ、もっと活発にということだと、一部のシンポジウムで、会場を4ブロックぐらいに分けて順番にこのブロックから発言を聞いていきますよというやり方はあるんですよ。

○小沢委員 そんなことありましたか。

○中村座長 いやいや、市民懇の話じゃないよ。

○小沢委員 マイクを占拠しちゃうなんて、そんなの見たことないけど、そんな威勢のいい人。

○中村座長 いや、だから市民懇ではその形式はとっていないですから。

○小沢委員 いや、ほかのでも。

○中村座長 ほかではもう多々ございますよ、私は、現場では何度も、それは。薩摩川内は確か増設の計画なんですよ。これについては、地元で動きはあるみたいですよ。反対の動きの方たちもいらっしゃるようなので。そういう方がそういう方でいらっしゃれば、もちろんまたご発言していただいて構わないんですけどね。

○小川委員 マイクジャックがあるかもしれないということですね。

○中村座長 とうか、物理的に、事務局なり運営担当が何人か配置して、だーっと走って行って、こうやってというのも、余りきれいではないと思っているので、それよりは、ご意見発表なんだから、挙手してお近くのマイクまで来てくださいと言って、そこでちゃんと発言するというのがやっぱり、お互いのルールとしてはいいかなと。

○小沢委員 前に出てきて立っているスタンドマイクでしゃべると、ちゃんとしゃべんなきゃいけないというので、しゃべり慣れていないと長くなるんですよ。むしろハンドマイクでやると慣れていて、ワンコーラスで終わってくれる場合もあるし。

○中村座長 僕はフルコーラスの経験のほうが多いから、それが嫌だと言っているんだけど。

○小沢委員 前出てくると、格好つけてなかなか終わらないということも。

○中村座長 中間案だけれども、マイクは可能な限りふやすことにして、やっぱりでもスタンドマイクにしませんか。

○小沢委員 いいですよ。座長さんがそう言うなら。

○中村座長 いや、会場にもよるんだけど、通路の中をこうやって持って行ってという流れは、余り僕自身は好まないんですけどね。ただし、現場の雰囲気ですけどね、場合によっては自由にどうぞと今までやっていましたけど、じゃ、順番にいきますねというので、

まずこのブロックの中からご発言どうぞ、次はそのブロックというふうに、全部のエリアに発言の機会を与えるような誘導、そういうのはありかなとは思っていますけどもね。そんな形式で今回はやってみようかなというプランなんですけれども。

○小沢委員 無理やりしゃべらせなくても、しゃべりたくなきゃいいですよ。

○中村座長 それもあるんですよ。無理やりどうですか、どうですかというのもまたね。一方で、テーマとは関係なしに、これ発言するぞと決めた人は、どう聞いても、きょうはこういうテーマですからと言っても、とうとうとやる人はいるので、それはそれで現場コントロールになるわけなんですけれども。

じゃ、流れとしてはそういう感じで、鹿児島開催を考えるとよろしいですか。

あと日程なんですけれども、一つは会場との関係があるのと、具体的に言うと、そんなに日程の余裕がないんですよ。それで、なるべくというか、ぜひもので皆さん専門委員には出席をしていただきたいので、シビアな日程調整をこれからさせていただこうと思うんですが、いろいろな流れから言うと、今実現できそうなのは2月中旬ぐらいなんですよね。それで土日というと14、15とかね。それから、10日の晩とかね。

○浅田委員 晩って、6時ぐらいからやるんですか。

○中村座長 うん。あしたはお休みだから来てくれるかなという、候補日としてですよ、例えば10日ならね。それから、14日、15日となると、土日もしっかりお昼かな、午後かなという。

○小沢委員 土日というのは割と出やすいんですかね。

○中村座長 いや、わからない。僕は逆だと思うんですけれども。でも、平日開催について必ずクレームがつくからね。

○小沢委員 平日の夜なんていっても、出にくいかな。

○浅田委員 女性たちに向かってそういう調査をしたら、結局、全部一緒だったんです。

○中村座長 そうでしょう。やっぱり休日や土曜日はまた出にくいので。

○小川委員 いつやっても同じということね。

○浅田委員 いつでも都合の悪い人はいて、でも一番都合が悪いのは水曜日の午後ですね。

○中村座長 あ、そう。

○浅田委員 はい。学校が早かったりとか、幼稚園が早かったりとか、先生たちもそこに職員会議が入るとかいろいろあるんです。水曜日の午後は避けたほうがいいかなというのが私の印象です。

○中村座長 それで、そのあたりで、土日開催をやってみたらどういうご意見になるかというのもあって、今回はやってみようかなという気持ちもあるんですけどね。そのあたりの皆さんのスケジュールはいかがですか。

○小沢委員 鹿児島というのは、これは午後からやると、その日のうちに飛行機で帰るんですか。

○中村座長 飛行機で帰れますよ。

候補日は、10日、14日、15日。

10日の夜になったら、これは帰られないですね。これは1泊しないとだめですね、夜開催にするとね。

○小川委員 私は15日からちょっと海外なので。

○中村座長 じゃ、14日はオーケー？

○小川委員 14日だったら。

○中村座長 14日オーケー。

○小川委員 それしかないですね。

○中村座長 14日ね。それはもう小川さんを優先しようかな。

○小川委員 いや、ただ、私の都合を申し上げただけで、皆さんので決めてください。

○中村座長 いや、いいですよ。ほかの方も伺いますから。今、NGという日があったら教えておいてくださいよ。

○小川委員 私、10日もちょっと。

○中村座長 2月10日と15日以降だめですと。小沢さんは。

○小沢委員 多分、どれも似たようなものですから、もうそちらで優先に決めてくださいと。

○中村座長 東嶋さんは。

○東嶋委員 努力します。

○中村座長 努力、結構ですね。吉岡先生。

○吉岡委員 何とか。

○中村座長 努力します。いいですね。私も努力します。

あと、出光さんと新井さんと岡本さんに伺って、絞り込みます。

一応何とかかなりそうな雰囲気は出光先生にも聞いてはいるんですけどね。じゃ、それであとは会場との関係でこの候補日の中から調整して、またご相談します。

じゃ、鹿児島開催は一応、原案はそういうことで、次回進めさせていただきます。それで、その進捗もあるので、もう一つね。

それから、もう一回年度内に開催することをこれからちょっと、短い時間ですけど、お話ししますので、年明け早々に皆さんとお会いしたいんです。なるべくもうフルメンバーでやりたいと思っております、年明け早々といっても第1週は多分落ち着かないでしょうから、13日からの週というのは皆さんのご都合どうですか。

○浅田委員 14、15、16大丈夫です。

○中村座長 14、15、16大丈夫。

○浅田委員 13が火曜日で、13がだめなんです。

○小沢委員 はい、何とかあります。13日以降なら。

○中村座長 それじゃ、特にきょうご欠席の3人にぜひ出席していただきたいので、それで調整を早速。

○浅田委員 すみません、16日金曜日の10時から12時はだめです、浅田は。

○小沢委員 14、15はどうですか。

○浅田委員 14、15はこれから決まるので行けるようにします。

○小沢委員 じゃ、そのいずれかにしましょう。

○中村座長 1月14、15あたりは大体オーケーですか、皆さん。16日は僕もだめなんですよ、僕も入っているの。

あとは3人だな。あとの3人の都合を聞いて。じゃ、それちょっと事務局に早急に。

○小沢委員 いつも月曜日はなかなか入らないで、いつも火曜日から入るのは月曜日はそんなに祭日が多いんですか。

○中村座長 多いですよ。振替休日が月曜日になるので。

○浅田委員 1年間で6回ぐらいは休むんです。

○中村座長 移動祝祭日が月曜日になる日が多いので。

じゃ、それでまた年明け早々に鹿児島の進捗状況と、それから次々回のやつのご相談をしたいと思うんですが、その次々回についてなんですけど、小沢さんから最初がありましたように、柏崎刈羽に何うという約束事があるんですね。私としては、もうちょっと早い時期ならやるべきであったと。時機を逸したのは非常に残念だと思っているのですが、大変今複雑な状況にあることは確かですね。

特に県知事の議会でのあれなんかを聞くと、本当にどうなるんだろうと。県の技術委員

会ですか、あれの結論が出るのを優先しようということなんだろうと思いますけれども、
どういうふうに動くか全くわからないんですが、ただ、どうなのかなと思うのは、本当に
適当な時期は来るんだろうかというのが一つあるんですよね。柏崎刈羽に行くべき時とい
うのが。実は行くべき時は終わったように思っているんですけど、これからで考えたとき
に。ただ、それを言っていると結局行けなくなっちゃうので、約束も果たせないし、やっ
ぱり聞きたいことはあるので、ぜひにとは思っているんですが、それをいつにするかとい
うところは。

○近藤委員長　でも、この間、市長選挙がありましたからね。8月はちょっとフィージビ
リティはなかったと思うんですよ。だから、これは我々の怠慢もあるんだけど、地
元で、あの票差を見ても2,000票の差ですからね。そういうところへ、もちろん我々
のこの会は何のためにやるか、市民の意見を聞くアンテナショップだということで、余り
土地の政治情勢を気にしないで出て行っていいという考え方もある。けれど、自治体の皆
さんがセンシティブ、ナーバスになられると、こちらは思ったことと違うことが起こるの
はかなわないと。責任をとれないと。他方で、そういうことでびびってしまって、引いて
しまって、いつまでたっても何もやらないということになっちゃうといわれると、確かに
反省するべき点はあるんですけども。

で、現状はというと、地元のそういう団体の方は、いろいろな意味で、このスケジュー
ルにあるように、いろいろな催しがあって、ある種、疲労感があることも間違いないので、
そこをわざわざ我々が行く必要があるかという、お互いに付加価値があるかということな
んです。お約束があるといいつつ、しかし、私どもはその後、保安院にも東電にも、地域
社会でちゃんと説明しなさいということを生懸命言っていて、それが効をそうしたとは
いわないけれども、このような動きが現実にある、近々には原子力安全委員会もいく、そ
ういうアクションがとられているとすれば、この面からは、私どもの役割は終わった、卒
業という考え方もあると思うんですよね。

そういう観点から、ちょっと今は年末から年始にかけての県、自治体の行事を考えてみ
るとどうかなということです。

○中村座長　ですから、一つは開催時期の問題があると思うんですけども、きょう欠席
の新井さんからメモが届いていまして、次回ということにはこだわらないけれども、少
なくとも開催するという方向は決めておいてもいいのではないかと。事情を考慮すること
も必要ではありますが、それを言っていると開催不能となってしまいますと。ぜひご検討

くださいという、柏崎開催についての意見もいただいているんですよね。

○小沢委員 あれ、本体はもう大丈夫、いつでも再開できる状況にあるんですか。

○近藤委員長 今は、いわゆる技術的な評価のレポートがようやくまとまったという、そういう段階です。そのオフィシャルな評価がでてきて、それによって次のステップを決めると、そういうところにあると理解しています。

○中村座長 保安院に東電が書類を出したところだし、東電のほうは、でも作業は進んでいて、きのうかおととい、会田市長は、試運転でも地元の同意が必要だということもまた言っているから、ごちゃごちゃしていることは確かですよ。

ただ、難しいところで、委員長が言われるのは本当によくわかるところなんだけど、当初の思いでいると、動き、それ自体とは関係なしに、やっぱり震災を受けた初めての立地というところの声を聞くという役目が終わっていないなという思いがあるので、個人的には年度内にやりたいというのがあったんですけど、ただ、やっぱり事情があれだし、今委員長が言われたように、第1回が刈羽だったし、今までやってきたことの結果が、今、保安院なり東電なりがそういう説明会を開いたり、住民の声を聞こうとしているところに反映されているんだよというふうになると、一番ごちゃごちゃしているときに改めてどうですかと意見を聞きに行くというのも、ちょっと合わないかなとは思いますがけれども。

○小沢委員 何を今さらという感じがしますよね。

○近藤委員長 それが一番つらいんですよ。相当、要望・要請が出て、それに対していろいろな形でアクションがとられているわけですよ。そういうところへ行って今さら何が知りたいというのも、ちょっと、もうそれは、餅は餅屋の世界になっていると思ったほうがいいのかなと思うんですけど。

○小沢委員 大体、トップレベルの人がもうちょっとまともな判断をしてくれなければ、今さら地元になんとか試運転どうのって、それはない話だと思うのよね。ああいうふうにして引き受けてやってきて。

○中村座長 そういうことですね。

○小沢委員 どちらかというところと反対するほうが普通だと思う人間から見ても、それはやっぱりちょっと筋が違うと思う。火に油を注ぎに行くわけにいかないし、そうかといって、何か本当の何か隠れたところで、上っ面の広報が悪かったみたいな話をいつまでするかというのも、堪忍袋の緒が切れると思う。だから私は余り賛成ではないですね。個人的には行きますけれども。

○中村座長 行くこと自体が。

○小沢委員 開くことがね。

○中村座長 ほかの皆さんはどうですかね。

東嶋さん。

○東嶋委員 私も中村座長の意見と一緒に、時機を逸したというか、もちろんこの間、時機を逸したというのは別に延びたことを責めているわけではなくて、確かに私たちが行きたいという志と気持ちはその時点では賛成していたんですけれども、環境を見ますと、やはりもっと地元で情報伝達についても具体的に聞いて、ほかの委員会などでもなさっていますので、なおかつ今年度ということと言いますと、ちょっと今年度のもう一回というのはあきらめてというか、今年度分についてはペンディングということで、ほかのところでこの地球環境と原子力というテーマでもう一度開いたほうがいいかと思います。

また、もしさらに地震を受けたところの立地地域ということであれば、また来年度考えて、状況に応じて考え直したらどうでしょうか。

○中村座長 というご意見が出ましたが、吉岡さん。

○吉岡委員 私も今年度実施ということについては、効果という点で余りないように思うので、基本的には先送りというのが賛成であるわけですが、問題となるのはそのかわりに何をやるかというようなことです。原子力開発利用は相当極めて厳しい状態に、私たちの会が前回開かれてから以降も、日々なっているわけで、具体的には世界金融危機の影響が最も大きい。あれで電力需要も減るでしょうし、何よりも投資のためのお金が電力会社に回らなくなるでしょう。ですから、配付資料の付録に書いてあるような、原子力発電の活発化、活発化と言っているけれども、私は崩壊寸前というような言い方が、正しいんじゃないかと思っているんですけれども、そういう状況の変化というのは非常に大きいわけで、原子力カルネサンスなんてほとんどジョークと化したように思う人は思っているわけです、私なんかもそうですけれども。

そういう状況に関する冷静な議論というのがあってもいいんじゃないですか。それは原子力発電所の地元というより都会なのかなというような気もしますが、そういう将来見通し、見通しが立たないと思うんですけれども、今の状況というのは一体何なんだということをしっかり踏まえて会を開くというか、あるいはしっかり認識させる、していただくための会を開くとか、ニュアンスはいろいろ幅があってもいいと思いますけれども、それがいいんじゃないだろうかという気がします。

○中村座長 吉岡先生の後半のところはまた別の議論になるかなという部分がありますが、けれども、柏崎刈羽開催については、東嶋さん、吉岡さんのご意見の方向が、きょうのところはどうやら皆さんの意思かなというふうに思いますので、ペンディングという形で。

じゃ、年度内もう一回をどうするか、立地なのか消費地なのか。そこで今の吉岡さんのお話が出てくると思いますので、そのあたりを、じゃ、1月10日過ぎに開催するところで詰めるという形でよろしいでしょうか。ちょっと考えておいてください。2月に鹿児島をやって、ぎりぎりですけども、何とかこうなったら3月中にもう1カ所やりたいというところはありますので。

○小沢委員 余り遠くないところならできるでしょう。今みたいな話も含めて。

○中村座長 ですから、その辺で候補地も含めて、開催内容も含めて、年末年始でお考えいただいて、年明けの委員会で建設的なご意見をぜひ伺いたいと。こういう流れで小沢さん、よろしいでしょうか。

○小沢委員 結構です。

○浅田委員 年明けの委員会をできるだけ早く連絡いただければ。

○中村座長 日程調整ね。これはもう当然、来週、再来週のうちに決めて。じゃないと、もう来年の予定が皆さん詰まって。じゃ、日程調整の件はそういう形で事務局にお願いしてよろしいでしょうか。

それでは、ちょうど予定の時間にもなりましたので、次回さらに活発なご審議をいただくということで、本日は終了したいと思います。

最後に何か事務局のほうから連絡等があれば伺っておきますが、特にありませんか。

○事務局 議事録はいつものようにまた、作成してご確認いただいた上で、ウェブで発表するという形にいたします。スケジュールは早急に調整させていただきます。

以上です。

○中村座長 あと、鹿児島開催について、鹿児島及び九州地方で推薦される発表者の方がいらっしゃれば、団体なり個人なり、ぜひこれは事務局のほうへご連絡をいただきたいと思います。

○近藤委員長 すみません。今、吉岡委員が、ルネサンスではないのではとおっしゃられたことに触発されて一言。確かに原子力界をめぐるいろいろな問題がある。経済情勢については1年とか再来年まで回復にかかるのではという話があって、それは原子力の世界から見たら、もともと5年、10年のスパンでお金の話も動いていることからすれば、デレ

イということであって、大きな物語に変更はないということでしょう。他方、これをきっかけに過去のトレンドが切りかわって、新しい世界が生まれるとすれば、この新しい世界にふさわしい原子力の成長モデルを見つけるまでに時間がかかりますよということになるのかもしれない。

いまのところは、日本だけで考えると、プラントをちゃんと動かし、増設をぽつぽつと進めていくということによいということになっていますから、動揺する必要はないと思っています。世界全体を見ますと、今まで皆さんが思っていたのと大分変わるかもしれない。よく見ると、頑張っているのはインドと中国だけなので、そこはこの不況の話が明らかになった12月になってからも新設計画を出しているくらいですから、にぶいのか、あるいは別世界なのか少し調べてみるべきとは思っていますが、現状はなおエネルギーが必要ということは変わらないということかと思っています。

一方で、過去、原子力の長期計画というのは5年ごとに改定されているということもあって、周りから皆さんからどうするのよとよく言われることが多くなってきているんです。こんなわけのわからない時期に何か考えるのがいいのか、こういうときだからこそ考えるとか、ちょっと悩んでいます。しかし、少しいろいろなことを整理して、これからの検討に備える準備は開始するのかなと思っています。

そこで、この市民懇についても、そうした検討における市民とのかかわり合いのあり方についてこれまでの経験を総括してコンクルージョンというか提言をとりまとめた上で区切りをつけるのかなと、そういうことを考える時期なのかなとも思っています。先ほど吉岡さんから発言があったので、突然、一言言わなきゃと思って考えているところを申し上げました。彼に何か言われるとすぐ反応するのが私の悪い癖で。

突然ですが、そんなことも考えていますので、そのことも含めて、年が明けたら皆さんとご相談したいなと思っています。年末にそういうことを聞いたことをちょっと頭に入れておいていただいて、練っていただいて、年明けにでもまた議論いただければと思います。

よろしくをお願いします。それでは、どうぞよいお年を。

○中村座長 わかりました。

ということで、我々としてもこの市民懇の委員でいる限りは、もっともっと委員長、ほかの原子力委員会の委員の皆さんとも意見交換できる場が持てれば、それに越したことはないので、これからのことも考えながら今年度を終わりたいと思っておりますので、よいお年をということで、年明けにお会いしたいと思います。またいろいろご意見をお聞かせく

ださい。

きょうはありがとうございました。これで終了いたします。